

拠点名称：近未来こども環境デザイン拠点

代表機関	名古屋市立大学	プロジェクトリーダー	上島 通浩 名古屋市立大学 大学院医学研究科 教授
幹事自治体	名古屋市	幹事機関	一般社団法人中部経済連合会、名古屋商工会議所、株式会社愛知銀行
参画機関	京都大学 東邦ガス株式会社、興和株式会社、新東工業株式会社、株式会社アラクス、株式会社スギ薬局		

プロジェクトの概要

核家族化により育児に関するピアサポートの土台が失われ、高齢化のため社会リソースが減じる社会では、妊娠・出産・育児に多くの課題が散在しており、名古屋市もその例外ではない。本拠点は、これら課題に対して大学の異分野融合での叡智（社会医学チーム、臨床チーム、心理チーム、データサイエンスチーム、人間工学チーム）を結集させ、名古屋市とタッグを組み、真っ向から切り込む。

目指す地域社会像 「妊娠・出産・育児に伴う困難が軽減され、ケアされ、産みたい人が産み育てることの楽しさを満喫できる社会」「すべてのこどもが必要なケアを受けられ、安心感を持って育つことのできる社会」

拠点の4つのターゲット 「すこやか習慣」、「すこやかセンサー」、「すこやかエデュケーション」、「すこやか社会環境」を実現し、新しい社会をデザインする。産みたい人が産み、育てることの楽しさを満喫できる社会、全てのこどもが安心感を持って育つことのできる未来都市ナゴヤを、名古屋市、参加企業と共に共創する。

本拠点のPLは環境省子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)愛知ユニットセンター長として、地域の4割の子どもが参加する長期縦断調査を実施するために、健康・子育て・教育・環境担当行政担当行政、県・市医師会ほか各種医療関連団体、愛知県内外の約60の産科・小児科医療施設等との連携協力体制を樹立している。また、研究開発課題の一部は名古屋市と協働を開始している。今後、名古屋市が策定予定の次期総合計画(2024年から)との整合を図れるよう活動の深堀りを検討する。

